

テサロニケの信徒への手紙一：学びの手引き

若い共同体は、反対や喪失に直面しながら、どう忠実であり続けられますか。

テサロニケの信徒への手紙一は、反対の中で信仰が根付いた信徒を励まします。パウロは福音を受け入れたことを振り返り、彼らへの心遣いを説明し、聖さと愛を求めます。死者が出て希望が揺らぐとき、イエスの復活と約束された再臨へ目を向けさせます。将来に関する箇所は、日時を予測する時刻表ではなく、牧会的な励ましとして読みましょう。

背景の中で手紙を読む

冒頭にはパウロ、シルワノ、テモテの名があります。通常はパウロのコリント滞在中、紀元50～51年ごろとされ、現存する最初期のキリスト教文書の一つです。パウロの著作と広く認められています。別離と心配の後、テモテの報告が安堵をもたらします。使徒言行録17章には関連する物語の背景がありますが、手紙自身の回想も、単なる使徒言行録の挿絵にせず聞く必要があります。

聖書の参照箇所: テサロニケの信徒への手紙一 1章1～10節・テサロニケの信徒への手紙一 3章1～13節

出典: primary, brown

論の流れをたどる

最初の三章は感謝を、奉仕の記憶と再会への切望に結び付けます。4～5章は性的な聖さ、兄弟愛、仕事、死別、主の再臨、共同体の配慮を扱います。2章14～16節の迫害者への厳しい言葉を、ユダヤ人全体への非難に変えてはいけません。この手紙は1世紀の対立から生まれ、パウロと最初のキリスト者の共同体自身も、ユダヤ人の歴史の中にありました。

聖書の参照箇所: テサロニケの信徒への手紙一 2章14～16節・テサロニケの信徒への手紙一 4章1節 - テサロニケの信徒への手紙一 5章28節

出典: primary

他者にも見える信仰

テサロニケの信徒への手紙ー 1章1～10節

冒頭の感謝は、信仰、愛、忍耐、苦難の中での福音の受容を振り返ります。偶像から離れることは、神に仕え、イエスを待ち望むことと結び付きます。その模範は、目立つこと自体を求めるのではなく、変わった忠誠と行動を通して広がります。

考えてみよう

テサロニケの人々の応答が、新しい情報を受け入れる以上のものとなるのは、どの点ですか。

配慮に形づくられる奉仕

テサロニケの信徒への手紙ー 2章1～20節

パウロは操作ではなく、勇気、誠実さ、労苦、愛情に満ちた配慮を思い起こします。親の比喻は優しさと、ふさわしい生き方への励ましを結びます。迫害の記述はその具体的な対立の中で読み、ユダヤ人全体を責めたりキリスト者の敵意を正当化したりする許可にはしてはいけません。

考えてみよう

へつらい、貪欲、圧力で影響力を保つ指導と、配慮する指導を区別するしるしは何ですか。

離れていても互いを力づける

テサロニケの信徒への手紙一 3章1～13節

離れていたためパウロはテモテを送り、その信仰と愛の報告が慰めをもたらします。共同体が良く応答しても心遣いはなくなりません。パウロの祈りは再会、増し加わる愛、聖さを結び、具体的な連絡と霊的配慮が互いを支えることを示します。

考えてみよう

テモテの訪問は、不安による支配と、支えるための心遣いの違いをどう示しますか。

身体、愛、仕事における聖さ

テサロニケの信徒への手紙ー 4章1～12節

パウロは他者の搾取を拒む性的な聖さ、深まる愛、責任ある仕事を求めます。神に喜ばれることを学ぶ共同体の行動が対象です。落ち着いて働くという指示は責任ある参加に関わり、働けない人を辱めたり、配慮の義務を否定したりするために用いてはいけません。

考えてみよう

身体への責任、愛、日々の仕事は、それぞれ他者の益をどう守りますか。

悲しみの中の希望と日々の備え

テサロニケの信徒への手紙ー 4章13節 – テサロニケの信徒への手紙ー 5章28節

イエスの復活は、亡くなった信徒も再臨から除外されないという確信の根拠です。描写は悲しむ人を励ますためであり、悲しみを禁じません。目を覚ましているようにとの呼びかけを、励ますこと、弱い人を助けること、主張を吟味すること、善を求めることという結びの命令と併せて読みましょう。

考えてみよう

復活の希望は、悲しみから早く抜け出すよう急かさずに、悲しむ人への配慮をどう深められますか。

出典

- [primary] 1 Thessalonians; primary biblical text. Reading references only; no Bible text is reproduced in this resource. <https://ebible.org/eng-web/1TH.htm>
- [brown] Raymond E. Brown, An Introduction to the New Testament (Doubleday, 1997), chapter 18. Background and scholarly discussion; not an endorsement of every interpretation in this study.

独自に制作した本文と画像：CC BY 4.0。聖書本文と第三者の素材は対象外です。

Pauline Letters · CC BY 4.0 · <https://paulineletters.com/ja/explore/resources/study-1-thessalonians>